

平成24年度 第1回学校評議員会 記録

岩手県立花巻清風支援学校

1 日 時 平成23年6月20日(水) 10:00~12:00

2 場 所 本校会議室

3 出席者 学校評議員 A氏(地域教育機関代表)

B氏(地域代表)

C氏(福祉・行政代表)

D氏(関係機関代表)

E氏(保護者代表)

以上5名

学校職員 校長 副校長 事務長 総括教務主任 小学部長

高等部長 寮務主任 支援センター部長

以上 8名

4 授業参観 10:00~10:40

5 学校評議員会 10:45~12:00

(1) 学校長挨拶

学校運営方針も併せて説明(資料P3参照)

昨年度、186名から児童生徒数が増え、199名の児童生徒でスタートした。「復興教育」において、本校は主に大槌高校と釜石祥雲支援学校を支援する。

「開かれた学校づくり」においては、このように外部の方から意見を伺う会議が大切である。忌憚のないご意見をいただき、有意義な学校評議員会にしたい。

(2) 議題

ア 平成24年度学校概要について(三田副校長)

別紙資料等により、在籍児童生徒数、出身地区、分教室、寄宿舎等について説明。

イ 平成23年度進路状況について(三田副校長)

別紙資料等により、進路の状況について説明。

<質問・意見>

D氏:花巻清風支援学校にはいつもお世話になっている。定員がいっぱいの状況であるが、受け入れができずに御迷惑をおかけすることのないようにしたいので、連絡を密にし取り組んでいきたい。

ウ 平成24年度入学・転入学の状況について(三田副校長)

別紙資料等により、入学手続きも含めて説明。

エ 平成24年度各学部運営方針について（各学部・分掌主事等より）

（各学部主事等より、プレゼンテーション画像で説明）

《小学部》

新入生9名、転入生4名を含む53名でスタートした。前年度までの取り組みに加え、児童一人ひとりが意欲的に取り組める環境作りに努めている。復興教育やキャリア教育の視点に立った教育活動を展開するとともに、交流及び共同学習を積極的に推進していきたい。

《中学部》

キャリア教育の一環として、あいさつ運動の充実、また、路線バスやJRの利用など経験の拡大を図り、将来に結びつけることを狙っている。毎朝、10分マラソンをしたり、肢体不自由を伴う生徒も体を動かす活動を毎日行っている。また、居住地校交流に取り組んだり、地域との交流として「かあちゃん市」を年間10回実施したりするなど、地域社会に向けて発信していきたい。

《高等部》

最終出口として、社会参加と自立を目指している。高等部は「働く力」を育成するために、作業学習や年2回行われる校内実習・産業現場等実習に力を入れている。1年生は校内実習、2・3年生は学校を離れ一般事業所や福祉サービス事業所で現場実習をしていく。実習終了後に企業や福祉サービス事業所から評価をいただき、評価会議で生徒個々の課題を検討し、学習に生かすようにしている。ほかに、自分の記録に挑戦していく障害者スポーツ大会やトライスポーツ、「田植え」などの伝統行事も行っている。

《寄宿舍》

遠距離等で通学困難なお子さんを対象に、学校や家庭と連携しながら運営している。行事や生活など、地域に支えられている。星まつりも、卒業生や地域の方々など多くの方の参加を呼びかけて行う予定である。

《訪問教育》

訪問は、在宅と花巻病院で訪問教育を行っている。訪問教育では、健康な体を作ること、経験の拡大を図ることに重点を置いている。そのため、体を動かす活動、足湯、散歩などの体づくり、楽器や造形活動等、様々な経験を学習内容に入れている。また、スクーリング等での経験拡大や本校生徒とのふれあいなどにも留意している。

《北上分教室》

中部病院にて病気療養中の小中学校の児童生徒を対象に、前籍校と連携し学習の機会を保障している。また、敷地内に花壇を準備していただいたり、校外学習への看護婦さんの付き添いをいただいたりなど病棟との連携も良好である。七夕コンサート、クリスマスコンサートなど病院の行事にも参加している。

《遠野分教室》

遠野小学校と附馬牛中にそれぞれ小・中の分教室がある。附馬牛中は今年度のみで、来年度からは遠野中学校に設置される。一緒の環境で学習できるということで、日常的に交流及び共同学習が行われている。

《特別支援教育センター》

地域の小中高に出向いて指導相談を行っている。昨年度は145件の相談があった。そのうちの半分が本校の相談で、そのほとんどは就学相談だが、残り半分が他の学校の相談。パンフレットを作成し、小・中学校、幼稚園などに配布している。地域の特別支援教育のセンター校としての役割を果たしながら、インクルーシブ教育の推進につなげていきたいと考えている。

(3) 意見交換・提言

A氏： 学校間交流で1・3・5年生と、清風支援学校の学年団との交流を継続して行っており、西南中学校につなげていきたい。今後、交流をしていく際、交流学习のまとめとして交流後の手紙のやりとりのほかにどのような交流の仕方があるか課題である。

また、高等部の環境整備班が本校に清掃に来てもらったが、一回きりで拡がりがない。本校児童とどのように関わりを持てばいいのかを知りたい。

学校から：隔年ではあっても、「また会ったね」「友達になれたね」といった、子どもたちは子どもたちなりにコミュニケーションが取れている。顔見知りになり声を掛け合っただけでかかわることが大切だと思う。交流及び共同学習においては、交流する前に互いの職員間で児童の実態や支援について共通理解をしながら進めることが大切だと思う。交流及び共同学習のまとめとしては、手紙や写真のやり取りもいいと思うが、顔写真や氏名などの個人情報については保護者の意向もあり慎重に扱いたい。

B氏：この学校ができた時に、バレーボールをする教師が赴任し、地域の方々にも普及していただいた。それ以来、30数年ぶりに本校を訪れて授業を参観させていただいた。「少年警察ボランティア協会」は全国組織で、花巻管内で45名の会員がいる。朝のあいさつ運動や、自転車の盗難及び防犯、列車の乗車マナーや乗車指導の活動を行っている。お役にたてればいい。

C氏：清風支援学校は北上市在住の生徒が多く、レスパイト事業を利用する児童生徒が多くなってきており、その事業への支援を市として継続できるのか難しい状況もある。昨年まではタクシー利用だったものをバスにして、利用料金を割り算して利用してもらっている。

発達障害に関する理解はまだまだである。関わりのある方には、講習会などを開くなどして理解していただいている。実際に関わりのない方にも、研修の機会を作っていただき御指導していただきたい。

D氏：清風支援の先生方にはお世話になっている。実際に直接指導に当たられている先生方と意見交換を密にし、卒業後みんなが明るく社会に出られるようなものを作ればいい。授業では、視覚的に提示するなど、養護学校の時代から指導の仕方が変わってきているのを感じる。学校の取り組みを無駄にしないような施設でありたいと思う。指導の面でも連携を深めていきたい。

E氏：今回、評議員を引き受けたが、他の評議員の方々のお話を聞くこともでき、これも何かの縁と思いありがたく感じている。思っている以上に、職員の皆さんが子どもたちのことを温かく見守っていただいていることを感じた。今後ともよろしく願いしたい。

学校から：第2回は1月に予定している。その際には、学校評価等の結果をあらかじめお渡して、目を通してから参加していただく予定。

学校評議委員会は年2回だが、機会がございましたら是非来校いただき御意見をいただきながら、学校の教育活動をいいものにしていきたい。